

知事に、6選の抱負を聞く。

知事6選への抱負について、知事にお伺い致します。

9月13日、自民党の代表質問に対して、6選への出馬表明をされました。

知事は、「多選の弊害と云われることのないよう、初心を忘れず、県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、“生まれて良かった”、“住んで良かった”、“訪れて良かった”と心から感じ取って頂けるような、而も、“誇りと幸せ”が実感できる石川の創造を目指して邁進します。」と表明されました。

4年前、多選に対する質問に対して、知事は、「多選に対しては、職業の自由と云う観点から、法律に触れる恐れがあり、選挙によって県民の判断を受けるべきもの…!」と云ったような答弁をされた内容からすれば、自ら、多選の弊害に触れての表明は、大きな変化があり、称賛に値するものでした。

そして又、「常に県民本位の姿勢で、県政の運営に全身全霊、傾注して行きたい。」と県民の目線で、真の県民党として貫きたい…と、更に、「一番長く住んだ土地である石川は、“愛着の念”と“感謝の気持ち”で一杯だ。」と、いつまでも、他県からきているハンディに対しての理解を求め、5期20年間、長きに渡って舵取りをさせて頂いた石川県と県民に対して、「感謝の意」を述べられたのでした。

本日は、県内から多数傍聴にいられており、皆様は知事の決意に注目されておられます。今一度、知事の6選への抱負について、知事に、お伺い致します。

さて、知事、「半沢直樹の倍返し」や「あまちゃんのジェ・ジェ・ジェ」など、現代の時代の流れ、県民の心を捉えることに感心を持つ必要があるように思えます。

さて、杉本元副知事が副知事退官の折、議場で、「素晴らしい知事であることを称え、その上で、県庁職員に対しては、もう少し、優しさと気配りをされることを望む。」との苦言を申されたことを思い出しました。

知事は、県民の目線で、県民や県庁職員の声に耳を傾けて頂けることは勿論ですが、寧ろ、「親の心子知らず」にならないように、知事部局の側近のスタッフがしっかりと認知し、充分配慮され、5期20年間の総括として6選へ臨んで頂きたいと願うものです。

特に、20年間は、県内市町へ副市長などでの出向、自ら会長職を務める体協や社会福祉協議会など、県が関係する外郭団体等、51団体でOBの数で103人を配置し、補助金等については、総額で年額50億円近くになります。更に、県の出資する団体を合わせ、106団体に及び、正に、万全な体制になっております。

6選目には、この20年間で十分意識して、是非とも、総括して頂きたいと願うものです。